

広島県の日本酒文化について語り合う地酒応援団の受講者



地酒応援団の品評熱く

竹原から初の「誠鏡」

盛川酒造は定番「白鴻」

05年5月以来続く「地酒応援団」が昨年11月22日夜、毎日文化センター広島(毎文)6階の料理教室で開かれた。酒どころ広島県の日本酒文化を究めようと、地元蔵元が自慢の名酒を提供、受講者が利き酒をしながら、語り合うユニークな特別講座。GZOスタッフの生信聖子がリポートします。

広島県三原市の西隣、竹原市にある酒蔵・中尾醸造。ここの清酒の名は「誠鏡(せいけいよう)」。酒の名前はどれもいい名前だなあと思う。相撲のしこ名もいけれど、酒の名前も負けていません。「Mirror of Truth」とパンフレットに記載されていると気づいた時には思わず笑ってしまった。平成25年度2度目の開催となる11月22日(金)の地酒応援団に、この「誠鏡」が初登場。よくぞお越しいただきました。新酒はただいま仕込み中。残念だったけど「誠鏡」の良さ、華やかな香りを存分に楽しんだ。いつもいつも欠かさずセッティングをしてくれる、盛川酒造の定番「白鴻(はくこう)」のやさしい味も

楽しめた。盛川酒造の盛川知則さんのおかげで、広島市内中心部にいながら、県内のあらゆる蔵元とコンタクトがとれて新鮮な酒を、蔵人自らに届けてもらえる。こんな良いたくな会はない。今回は「誠鏡」を携えて、中尾醸造社長の中尾強志さんにお越しいたいた。参加者が思い思いに持ち寄った刺し身などとお隣に勧めながら、

広島県の酒を汲みかわす。毎日文化センター広島市の講師を始め、受講生、関連校から、そしてそのお友達へと輪は広がりに、なぜかお酒の飲めない方まで、楽しんで参加されている。こんな会に参加している、日本酒の縁がつながってくれた会そのものと思ってしまう。しまいに老若男女笑顔でいるところが一番の魅力なのではないかと思うのである。今回は

誠鏡の@ロゴ入り前掛け、手ぬぐいなどのジャンケン争奪戦あり、お得意な会となった。酒を飲み、おいしいものを食べて、ほろ酔い気分になる。これがこの会のおもてなし。広島県の酒が身にも心にも染み渡ります。広島酒の良さを知る人が増えれば良いなあと思う。【生信聖子】

生信聖子のちょっとアンタ!

行するのが認しておこう。①夜基本で、さ間は必ず灯火する②らに今回の夜間の反射材の利用は積極的に③飲酒運転、電話や傘などを利用しながらの運行

昨年12月1日、改正道路交通法が施行された。自転車の走行ルールがより厳格になったのをご存知だろうか。路側帯を通る自転車には、車と同じ左側通行が義務付けられた。違反すれば3ヶ月以下の懲役または5万円以下の罰金が科せられるという。自転車は軽車両なので、原則歩道を通ってはいけない。車道左側の路側帯を通

自転車の走行ルール

昨年12月から変更

改正道交法

側通行が義務付けられた。違反すれば3ヶ月以下の懲役または5万円以下の罰金が科せられるという。自転車は軽車両なので、原則歩道を通ってはいけない。車道左側の路側帯を通